

The Pocket
OXFORD
DICTIONARY
of
CURRENT ENGLISH

Compiled by
F. G. FOWLER & H. W. FOWLER

FOURTH EDITION

Revised by
H. G. LE MESURIER and E. MCINTOSH



OXFORD
AT THE CLARENDON PRESS

棚にうずくまるものに

横井 洋太

ひところは「世界で一番強かった」
父の磁石がうずくまる棚

俵万智さんの第一歌集である『サラダ記念日』の新鮮さを快く想い出す人は我々の世代にも多い。冒頭の歌は、その歌集の中で私が最もよく口ずさむ歌である。特に最近はその頻度が高い。俵さんの意とは少しずれているようだが、私はこの歌に、近年の私が感じている、知の生成と持続に関わる詩情を、重ねあわせている。

およそ研究者というものは、その規模の大小や科学的価値の軽重は別として、人生に少なくとも一度は世界一の仕事をする、あるいはしたとを感じるものであろう。そして、その業績は、世代の移りとともに時の中に埋まり、それぞれはひっそりと、その質を保ちながら存在を続ける。図書館や博物館の棚は、そのような、過去の人々の知的業績がうずくまる場所である。そこを訪れる新しい世代は時にその存在に刺激され、人の英知に想いを馳せるとともに、新たな知的活動の糧を得る。「世界で一番強かった」という句と「うずくまる棚」という句の対比が知の有り様をしみじみと感じさせる。

だから人はしばしば図書館の棚の前で人の知を感じ、自らの中の学を感じるのだろう。

「ふつう、講義といえば知識を身につけるためのもの、物理学ならば計算の仕方や根拠を教えて演習問題を解くというはずが、寺本先生の講義は全く違っていた。知識は各自が勉強してくればよいので、講義はさまざまな異なる分野のパースペクティブを与えるものだという立場に徹するといってよいだろう。

その講義で参考書として紹介された『マルコフ過程と力学過程』（槇書房）という白く薄い本を、まだ油引きの建物だった教養部の図書室の奥の棚に見つけて、ページをゆっくり繰りながら1ステップずつ理解していくという経験をした。寺本先生の講義口調を思い出しながら、これが学問の楽しみ、というものかもしれないと思った。」
(巖佐 庸 「寺本先生の思い出」 『数理生物学懇談会ニューズレター19号』)

ご存知の方も多いと思うが故寺本英先生は著名な生物物理学者であり、巖佐さんは現在最もアクティブな数理生物学者である。長い引用になったが、寺本先生の訃報に接して書かれた、巖佐さんのこの京大教養部時代の思い出の文が、私は好きである。私には未知の図書室であるが、建物のわずかな油のにおいと部屋の静けさと書棚の持つロマンとが伝わってくるようで快い。図書館（室）が持つ本質的な役割の一つがここに語られている。教養部の二年生の巖佐さんの耳には、「そうだ、人はそのようにして知を得、知を生み出していくのだ」というような寺本先生の声が聞こえていたのではないかと思う。

図書館の最も大きな機能は文字的資料の貯蔵と利用者へのその供給である。近年盛んな電子図書館構想は、この機能をより効率的に果たすための極めて有効な手段であろう。研究・教育に従事する我々には、必要な文献や資料を手元のコンピュータで手軽に取り出せるシステムはまことにありがたい。

電子図書館化はこれから着実に進むであろう。しかし、その流れが、教員のような知的作業従事者の利便に偏りすぎて、図書

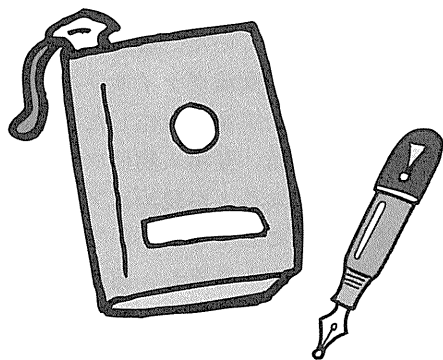
館のもう一つの機能を縮小することがないように祈っている。学生諸君の多くは、未だ知的世界の入り口に居る。学生諸君にとっての図書館は、様々な様子で棚にうずくまるものに接することにより、知を作り上げるのに必要な感性と知への尊敬心を育てる場所でもある。

図書館の棚には、単なる資料の貯蔵庫以上の何かがある。この教養図書館を訪れる学生諸君も、ここで図書館のそんな側面を感じ、書棚にうずくまるものから思いもかけないものを得る時があるだろう。

肉体は死してびっしり書庫に夏
(寺山修司 「少年探偵団」)

学生諸君が、この図書館から出来る限り多くのものを得て、幅広い知的内容を持った生命科学系技術者・研究者に育ててくれることを願っている。

(教養図書館長・生物学)



図書館利用について

図書館に入ってすぐ1階には参考図書・辞典類のコーナー・新刊雑誌コーナー・AV資料コーナー等があります。貸出・返却・予約等の手続は、すべて1階メインカウンターで行っています。

持ち物を持ったまま階段をあがってみて下さい。2階部分が、新刊書中心の一般図書を併設した閲覧室になっています。この階には、図書館の蔵書のうち比較的利用の多い自然科学系の図書を含め、最近受け入れた図書(過去10年分に遡って)が全分野にわたって並べられています。階段を上って右側のコーナーには、講義用参考文献・ゼミ指定図書・文庫本・新書等があり、南側にはキャレルを配し、北側にはグループ学習もできる閲覧席があります。B.D.S.(Book Detection System)を導入する事により、館内では書架の資料を自由に閲覧室で利用することができます。館外に持ち出す時は、必ず1階のメインカウンターで貸出手続をして下さい。この手続を怠ると、館外に出ることができません。この階にない資料は、地階の電動書架で探して下さい。

地階には、一般図書の他に、製本雑誌や美術書等があります。

最上階の3階には、グループ学習のできるゼミ室・研修室等があります。わからない事や疑問に感じた時には、随時カウンターに申し出て下さい。館内設置の投書箱を利用されても結構です。又、読みたい本や図書館に備えつけて欲しい資料がありましたら、図書館に常備されている『購入希望票』に記入して1階メインカウンターに提出して下さい。できるだけ皆さんの要望に応えて行きたいと思っています。

図書館を上手に使いこなし、学生生活に大きく役立てて下さることを祈っています。

この夏3度買った本と買えなかった本と

瀧澤直定

明日は飛行機に乗るので書店に立ち寄った。活字ホリックで、トイレは勿論のこと乗り物には活字を携えないともったいなくて乗れない。堆く積みあがった「複雑系による科学革命」という本を見つけてそれを求めた。タイへは今年で連続して3回通うことになる。通う目的は不純である。日本では高価で口にできないような料理を食べまくり、余る時間を費やして安価な雑貨をさらに安価に値切り、そして南国の空気に浸るのである。出発の1週間ほど前からタイ経済の危機に対するIMFや日本の援助が報道されているおりに、これでは申し訳なくて乗り物やホテルの中では複雑系でも考えていなくては……飛行機の席に着いて早速この新刊を取り出した。巻頭と目次をながめただけでこの旅は楽しいものになると読みとり、安心して席の網袋に入れた。飛行機を降りる時これを忘れたのである。ホテルで気が付いた時、少し皮膚の浅黒いタイ人の掃除係が網袋からあの本を取り出し、大きなゴミ袋へ無造作に放り込むイメージが何度か頭をかすめ、この旅行では「バンコク空港の税関の出方」とか「成田空港のご案内」とかを何度も読まなくてはならないことを悟った。それしか活字を持たないのだから。

タイでも日本の百貨店で日本の本を売っていた。もとよりいくらその店をうろついてもあんな本は手に入らない。東京に帰ってから、3冊ほど重ねて置いてある書店で再びその本を求めた。私は東京湾湾奥の生物調査をライフワークとしている。具体的な作業としては、竿を用いて魚類の捕獲をしているわけだ。波に揺られながら舟内で読もうとすると一緒に乗った学生の一人が

「先生、読み終わったらその本貸して下さい」と言った。私は一瞬彼の顔を見て最初は何を言われたか良くは理解出来なかった。その学生から出る言葉ではなかったからである。素早く脳細胞を働かせて、すかさず「本当に読むならあげるよ」と言って本を手渡した。彼がその気になった時に渡さないとまた彼がその気になってくれるかを恐れたのである。本はまた買えるのだから。

しかし、3冊目の購入は思うようにはいかなかった。1冊目を購入してから1ヶ月程過ぎていた。新宿、高田の馬場、池袋と書店を何軒も覗いたがすでに置いている店はなかった。本は「これを下さい」と言って買いたいのだが、北里大学御用達大沼書店にお願いして取り寄せてもらった。今大切に机の上に保管してある。もう手放さない。埃もついてきた。面白そうな本だ。

横になってTV「週間ブックレビュー」を見ていた。ゲストは映画監督の羽仁進とピアニストの中村絃子、もう一人は失礼ですが忘れまして。中村絃子が小説「星の国のアリア」を推薦していた。著者は小説を書いて2作目とかの女流ヴァイオリニストで、内容は日本とロシアを舞台にした天才歌姫の波瀾万丈の物語。登場人物はフィクションではあるが、知る人が読めばアアと分かる人達をモデルにしているという。羽仁進はこんな面白い本を発見し、紹介していただいたことに感謝であるし、何よりも3人の読み上手が揃って泣けるというので愚妻も気に入った。面白い小説は読まないという自らの掟、これはしばしば破られてきたのだが、を破って翌日から早速獲得活動に入った。近くの書店は、案の定、無駄足だった。活動は再び1ヶ月に及んだ。本を探

すうちにこの本は書店や店員の質と性格をくっきりと示す性質のものであることが解ってきた。表題を言って尋ねたときの店員の対応が様々なのだ。講談社発行の新刊なのに表題を告げて聞いていたことのないような店員、またレジのおじさんが困ってメモしていると、横から若い女性店員が「アあれ、売り切れました」と即座に答えが返ってくる書店、大きな店なのに仕入れていない書店。活動も引き際になったころにはこの本の伝道師のようになってしまっていたのだが、本は姿を現さなかった。ついに大沼書店におすがりすることにした。2週間程後の出版社からのお告げは、売切廃版であったそうだ。獲得活動を通して私は感じる。この本には何か出版の秘密が隠されていると。

情報革命の波が、ある種の書物の役割を押し流し、それは電子的記録媒体と通信網にとって代われようとしている。書店で本を探す楽しみもインターネットサーフィンに代る時代かもしれない。

(情報科学)

北里大学図書館共通利用カード の交付について

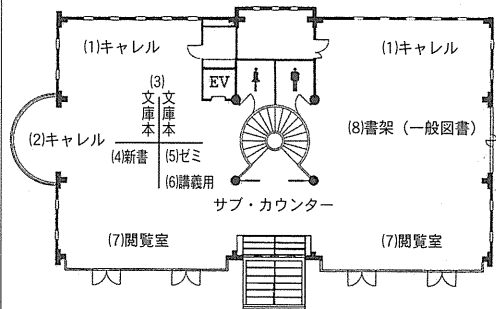
図書館を利用するには、「北里大学図書館共通利用カード」が必要です。相模原キャンパス共通のものです。新入生の皆さんには、5月下旬に交付します。詳しくは、後日掲示致します。尚、交付までの間は、学生証を代用してください。

「講義用参考文献コーナー」と 「ゼミ指定図書コーナー」

教養図書館では、講義の理解に役立つ参考書、テキスト等を購入して皆さんの利用の便宜をはかっております。図書館2階にそれぞれのコーナーがあります。利用方法は、一般図書と同様です。大いに活用してください。

図書館のご案内 2F

皆さん図書館の中をご存じですか？ 教養図書館は地上3階地下1階の独立館です。配置を覚えて上手に図書館を利用してください。今号では、皆さんが一番よく利用される2階をご案内致しましょう。



(1) キャレル

落ちついた雰囲気のある個人席

(2) ベイウインドウキャレル

相模原キャンパスの風景を眺めながら勉強のできる席

(3) 文庫本コーナー

岩波・新潮・角川等の文庫本があります。ハンディで、通学途中の電車・バスでの読書に最適です。

(4) 新書コーナー

岩波・中公・講談社現代新書が並んでいます。

(5) ゼミ指定図書

担当教員の指定する図書が並んでいます。

(6) 講義用参考文献

担当教員の指定するテキスト、参考図書などが並んでいます。

(7) 閲覧席

自由に利用できる閲覧席が76席あります。

(8) 書架

新刊本を中心に約5000冊の本が並んでいます。

P.O.D.の「ポケット」

原 田 良 雄

高崎線の車内で神田で買い求めたばかりのPocket Oxford Dictionary (P.O.D.) を一心不乱に読んでいた—beautiful, dog, pretty, April, …。「神田」が地方に住む者にとって特別な響きをもっていた時代、洋書が地方では簡単には手に入らなかった40数年前の高校2年の夏休み、P.O.D.を求めて前橋より上京、念願の辞書を手にした時の満たされた気持ち、その後これに匹敵する感激は二度と訪れなかった。

Dog=「犬」だろうか、beautiful=「美しい」だろうか、April は、はたして「4月」なのか…。駅毎に5分とか10分停車が普通だった。熊谷駅に停車したとき読んだのがApril だった。April の定義として「1年の4番目の月」と定義している様なホーンビーの英英辞典（現在でも各種英英辞典の定義は同じである）が高校生・大学生に大変人気があったのだが、P.O.D.のApril の定義はそれとは全く違うものだった。April とは、「A month noted for alternations of sunshine & showers」とあるではないか。

間も無くイギリスにも行くチャンスにめぐまれ、イギリスの4月を「the fourth month of the year」ではなく「a month noted for alternations of sunshine & showers」と（足の底から）味わうことができた。その後、大学・大学院で中世イギリス最大の詩人チョーサーにより、「April」という月が「やさしいにわか雨」で大地を潤し自然を目ざめさせ、聖地巡礼へと人を駆り立てる月であることを知った。

精神文化のニュアンスの片鱗でも知らせてくれるのが、日本人にとっての「英英辞典」の意義ではなかろうか。「4番目の月」の定義ではたして英英辞典を引く何程の意味があるのだろうか。それを教えてくれたのがP.O.D.だった。

最後に、P.O.D.の思わず微笑んでしまう実感たっぷりの定義を一つ紹介しよう。

Pocket, n. Small bag inserted in garment for carrying things, keeping hands warm, &c. (ポケット：「……手を暖めたりするところ」)【ちなみに、『広辞苑』、『新明解国語辞典』等での定義は、「洋服に付けた袋状の物入れ」である】。

(英語)

編集後記

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。この冬は、暖冬と言われながら1月に何度か降った雪もこの相模原キャンパスでは20cmを越える程でした。春の訪れとともに皆さんをお迎えすることができ、館員一同嬉しく思います。

教養図書館では、『閲覧ニュース』を年2～3回発行しています。この閲覧ニュースが利用者の皆さんと教養図書館のコミュニケーションに役立つことを願います。

尚、閲覧ニュースのバックナンバーが少しありますので、ご希望の方は、是非、教養図書館の係の者に声をかけて下さい。

閲覧ニュース83号

1998. 4発行

北里大学教養図書館

発行責任者 横井 洋太

〒228-8555 相模原市北里1-15-1

電話 (0427) 78-8005